

DPS



DPS 研究会における DPS ワークショップでの 取り組み

勝本道哲

(独)情報通信研究機構

マルチメディア通信と分散処理 (DPS) 研究会では、年 1 回合宿形式のワークショップを開催しております。このワークショップは、これまでに 14 回開催してきており、特に若手研究者および芽生え研究をエンカレッジし、相互理解と相互成長のための深いコミュニケーションを生み出すための数々の企画を実行しています。本稿では、鹿児島島の霧島で開催した第 14 回ワークショップでの活動を中心に DPS ワークショップでの取り組みをご紹介します。

DPS ワークショップの基本的な役割

DPS ワークショップの役割は、

- 1 研究者の濃密なコミュニケーションの場、
- 2 研究分野および研究者をエンカレッジする場、
- 3 若手の育成および芽生え研究の発掘の場、

を提供することと考えています。そのため、1 に関しては合宿形式の缶詰状態でのワークショップを実施。2、3 に関しては数種類の賞を準備し、また査読員の方々には査読のコメントには論文誌とは違う工夫をしていただくようお願いしております。

研究者の濃密なコミュニケーションの場

研究内容の議論はもちろん重要ですが、まず、はじめに研究者の方々が人としてコミュニケーションを深めることができれば、それ以後は E-mail や遠隔会議での議論も深めることができるであろう、という考えから合宿形式をとっており、これを機により深い親交を深めてい



◆写真 1 授賞式で最優秀論文賞を受賞する藤井彩恵さん

ただきたいと考えています。第 14 回の学生参加者から「採録通知がきたが、不採録に近いコメントをもらってあきらめよう!! と言ったら、普段温厚な指導教官から初めて怒鳴られて目が覚めた」等の情報は普段聞くことはできないし、他の学生にとっても共感できる話であったりして良い刺激になっています。また、その時の学生だった方々が、DPS 研の幹事や運営員となり研究会の活動のみならず、学術分野の発展に貢献していると、やはり良い場を提供してきている、と考えます。今回も 2 日目は深夜すぎまでのコミュニケーションが図られ、親密な場を得ることができたと思います。

研究者へのエンカレッジ

受賞を目的に研究をしている方はいらっしやらないと思いますが、やはり何か賞を受賞するということは、うれしいことでもあり励みにもなると考えていますので、最優秀論文賞、優秀論文賞を設けております。これらの賞は、芽生え的研究やポジションペーパーに対する評価も重要な視点に加えていることが特徴で、ワークショップに大いなる議論を提供してくれた論文も対象としています。新しい研究でどの研究会に投稿すればよいのか迷われている方は、少々査読のコメントは厳しいかと思いますが、DPS ワークショップに一度投稿してみたいかがでしょうか。

第 14 回の最優秀論文賞に、

藤井彩恵さん (大阪大学)、他 5 名：少ない基準位置情報を移動無線端末間で補正する都市部向け位置推定手法の提案

が選定されました (写真 1)。この論文は、現在最もホットな位置情報サービスに関する提案で、GPS 情報の取得が困難な地区や地下街での利用を想定した技術であり、



◆写真2 優秀学生賞を受賞した方々

移動端末は、常に正確に位置情報を把握している基準ノードが発信する情報をアドホックネットワークにより受信し、それを基準位置情報として推定値情報を計算しながら移動し、その途中で新たな基準ノードや他の移動端末から位置情報を取得しながら位置情報サービスを提供する内容でした。この論文は、推定位置を計算するアルゴリズムであり、予想到達位置の計算に障害物地図を利用し、移動不可能とする場所の計算を削除し計算量を減らすと同時に基準ノードも減らすことが可能であり、さらに人が横断できない中央分離帯や河川を超えての誤サービス提供も防ぐことができる、といった点が優れておりました。セッションでは、基準ノードの具体的な実装に関する議論がホットであり、RFIDなのか無線LAN局なのか等実装に向けた議論やGPS情報の取得が可能な地点では組み合わせるとどのくらいの精度になるのか等が白熱いたしました。

また、優秀論文賞には、上田新太郎君(慶應義塾大学)、谷口哲也君(大阪大学)、渡邊未佳さん(東京電機大学)、串田高幸君(日本IBM)の4名が選定されました。第14回ワークショップではこの5名には40分という持ち時間を設定したため、発表もすばらしく、また活発な議論により充実したセッションでありました。

若手へのエンカレッジ

学生の研究者の方々にはさらに躍進していただきたく、査読による優秀学生賞を選出しています。優秀学生賞には副賞もあり、今後の研究活動に役立てていただきたいと考えています。第14回ワークショップでは4名の優秀学生賞を選出したのですが、この4名は、最優秀論文賞と優秀論文賞受賞者でもありました(写真2)。

また、論文に対する賞だけではなく、いかに魅力があり分かりやすいプレゼンテーションを行ったかを、参加者からの投票により選出する、ベストプレゼンテーシ

ョン賞を設定しています。したがって、発表者はこの賞の受賞を目標に発表練習をするのもよいですし、良い発表をお手本に当日発表の仕方を変更してもよいでしょう。また、この投票のために聴講する側も研究内容だけではなく、プレゼンの仕方についても意識をしていただければと考えています。

参加者のエンカレッジ

相互理解・相互成長に重点をおくという趣旨から、発表に対して有意義な質問やコメントや意見を活発に行った方を、やはり、参加者からの投票により選出する、ベストカンバサント賞を設けております。ただし、この賞はクロージングセッションに参加していないと受賞できないことになっています。最後まで、活発なご意見やコメントをいただきたいと考えています。

コミュニケーションを広げ、研究活性化へ向けて

DPS ワークショップは、10月下旬から12月初旬の時期に開催され、これはDPS研究会の活動において、年4回の研究会と年1回の論文誌特集号のサイクルの下半期の間であり、研究会での発表にて提案・素案作りを行い、このワークショップで完成度を高め、論文誌への投稿というサイクルを想定しております。

来年度第15回ワークショップは金沢で10月末を予定しており、本稿が発刊されたころにはCFPも掲載されていると思いますので、ぜひご参加いただき、ご自身の研究だけではなく、分野全体の発展にご協力願ひ得れば幸いです。また、DPS研究会を盛り上げていただけるよう皆様の研究会への投稿も期待いたします。

(平成18年12月7日受付)



勝本道哲(正会員)

katumoto@nict.go.jp

1997年東洋大学大学院博士課程修了。工学博士。同年郵政省通信総合研究所(現・独)情報通信研究機構(NICT)入所。ユニバーサルメディア研究センターにて、実空間立体音響に関する研究に従事。DPS研究会運営委員。